

岡崎市版レッドリストの改訂について

1 要旨

岡崎市では、市内に生息する動物（哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類、クモ類、貝類）及び市内に生育する植物（維管束植物※）について、最新の知見により見直し、第2次岡崎市版レッドリスト2018を作成しました。

今回作成した第2次岡崎市版レッドリスト2018では、絶滅のおそれのある種（絶滅危惧Ⅰ類及びⅡ類）として植物117種、動物107種を、現時点での絶滅危険度は小さいものの、生息・生育条件の変化によっては絶滅のおそれのある種に移行する要素を有する種（準絶滅危惧）として植物70種、動物88種など、合計で植物232種、動物226種を掲載しています。

※種子植物及びシダ植物

2 目的及び経緯

本市では生物多様性の取組みの方向性や生物多様性に関する施策を計画的かつ効果的に進めていくための基本計画として「生物多様性おかげき戦略」を平成24年度に策定しました。戦略の施策に掲げた希少野生動植物の保護への具体的な取組みとして、平成25年度に岡崎市版レッドリストを作成し、平成26年度には一部リストの内容を修正して「レッドデータブックおかげき2014」を発行することで絶滅のおそれのある野生動植物の存在を周知し、生育・生息環境の保全の重要性を啓発してきました。

レッドリストは、野生動植物を取り巻く環境が、開発等による土地の改変、外来種の侵入など様々な要因により変化していることから、絶滅のおそれのある野生動植物の状況を的確に把握するために、定期的に見直しを行う必要があります。日本国内の行政（愛知県、名古屋市等）が作成するレッドリストの多くが5年を目安に改訂しています。本市でも現行の岡崎市版レッドリスト作成から約5年が経過することから見直しを行い、第2次岡崎市版レッドリスト2018を取りまとめました。

3 調査体制等

平成20年度に「岡崎市自然環境調査検討委員会」を設置し、調査対象動植物の評価基準・方法及び調査内容等について検討を行ってきました。

岡崎市自然環境調査検討委員会 委員名簿

専門分野等	委員
哺乳類	<small>おじかよとみ</small> 小鹿登美（西三河野生生物研究会）
鳥類	<small>こじまよしたけ</small> 小嶋良武（西三河野鳥の会）
爬虫類	<small>やべ たかし</small> 矢部 隆（愛知学泉大学教授）
両生類・魚類	<small>ながい ただし</small> 永井 貞（岡崎市動植物調査会）
昆虫類	<small>おおひらひとお</small> 大平仁夫（岡崎国立共同研究機構生理学研究所名誉技官）
	<small>すぎさかよしのり</small> 杉坂美典（岡崎市動植物調査会）
クモ類	<small>おがたきよと</small> 緒方清人（日本蜘蛛学会評議員）
貝類	<small>きむらしょういち</small> 木村昭一（日本貝類学会評議員）
植物類	<small>わたなべみさお</small> 渡邊幹男（愛知教育大学教授）

4 第2次岡崎市版レッドリスト 2018 の概要

(1) 植物の概要

今回、第2次岡崎市版レッドリスト 2018 に掲載された植物の種数は、表1のとおりです。

この改訂案では、絶滅のおそれのある種（絶滅危惧Ⅰ類及びⅡ類）が117種となっています。また、現時点での絶滅危険度は小さいものの、生息条件の変化によっては絶滅のおそれのある種に移行する要素を有する種（準絶滅危惧）として70種、市内では既に絶滅した種として36種を掲載しています。

また、絶滅のおそれの程度を評価するに足る情報が不足している種として9種を掲載しています。

現行の「レッドデータブックおかげき 2014」掲載種と比較すると、絶滅の危険性のランクが上がった種が3種、新規掲載された種が1種あります。

【絶滅の危険性のランクが上がった種】

シロバイ（維管束植物・ハイノキ科）	絶滅危惧ⅠA類	[絶滅危惧ⅠB類]
ミズギク（維管束植物・キク科）	絶滅危惧ⅠB類	[絶滅危惧Ⅱ類]
シラタマホシクサ（維管束植物・ホシクサ科）	絶滅危惧Ⅱ類	[情報不足]

【新規掲載された種】

ホソバリンドウ（維管束植物・リンドウ科）	絶滅危惧Ⅱ類	[新規掲載]
----------------------	--------	--------

※[]内は、レッドデータブックおかげき 2014 の評価区分を示しています

表1 第2次岡崎市版レッドリスト2018 掲載種数(植物)

評価区分 対象	絶滅 (EX)	絶滅のおそれのある種				準絶滅 危惧 (NT)	情報 不足 (DD)	計	地域 個体群 (LP)
		絶滅 危惧 I A類 (CR)	絶滅 危惧 I B類 (EN)	絶滅 危惧 II類 (VU)	小計				
維管束植物	36	11	23	82	116	70	9	231	0
計	36	11	23	82	116	70	9	231	0

※ は現行のレッドデータブックおかげき2014から変化のある部分を示しています

参考 レッドデータブックおかげき2014 掲載種数(植物)

評価区分 対象	絶滅 (EX)	絶滅のおそれのある種				準絶滅 危惧 (NT)	情報 不足 (DD)	計	地域 個体群 (LP)
		絶滅 危惧 I A類 (CR)	絶滅 危惧 I B類 (EN)	絶滅 危惧 II類 (VU)	小計				
維管束植物	36	10	24	81	115	70	10	231	0
計	36	10	24	81	115	70	10	231	0

(2) 動物の概要

今回、第2次岡崎市版レッドリスト 2018 に掲載された動物の種数は、表2のとおりです。

この改訂案では、絶滅のおそれのある種（絶滅危惧Ⅰ類及びⅡ類）が106種であり、その内訳は、哺乳類が7種、鳥類が23種、爬虫類が1種、両生類が3種、魚類が3種、昆虫類が36種、クモ類が26種及び貝類が8種となっています。また、現時点での絶滅危険度は小さいものの、生息条件の変化によっては絶滅のおそれのある種に移行する要素を有する種（準絶滅危惧）として、哺乳類2種、鳥類17種、両生類5種、魚類6種、昆虫類48種、クモ類4種及び貝類6種を、さらに、市内では既に絶滅した種として哺乳類3種、魚類2種及び昆虫類8種を掲載しています。

また、絶滅のおそれの程度を評価するに足る情報が不足している種として、哺乳類2種、鳥類2種、爬虫類2種、両生類1種、魚類3種、昆虫類5種、クモ類1種及び貝類2種を掲載しています。

なお、国内及び愛知県における生息状況から、本市において特に保全のための配慮が必要と考えられる特徴的な個体群を「地域個体群」として鳥類で2個体群掲載しています。

現行の「レッドデータブックおかげき 2014」掲載種と比較すると、絶滅の危険性のランクが上がった種が10種、絶滅の危険性のランクが下がった種が1種、新規掲載された種が6種あります。

【絶滅の危険性のランクが上がった種】

ウラクロシジミ（昆虫類・シジミチョウ科）	絶滅	[絶滅危惧Ⅱ類]
ギンイチモンジセセリ（昆虫類・セセリチョウ科）	絶滅危惧ⅠA類	[絶滅危惧Ⅱ類]
ウラギンスジヒョウモン（昆虫類・タテハチョウ科）	絶滅危惧ⅠA類	[準絶滅危惧]
オオミスジ（昆虫類・タテハチョウ科）	絶滅危惧ⅠA類	[準絶滅危惧]
サカハチチョウ（昆虫類・タテハチョウ科）	絶滅危惧ⅠA類	[準絶滅危惧]
クロヒカゲモドキ（昆虫類・タテハチョウ科）	絶滅危惧ⅠB類	[絶滅危惧Ⅱ類]
ハルゼミ（昆虫類・セミ科）	絶滅危惧Ⅱ類	[準絶滅危惧]
ガムシ（昆虫類・ガムシ科）	絶滅危惧Ⅱ類	[準絶滅危惧]
クモガタヒョウモン（昆虫類・タテハチョウ科）	絶滅危惧Ⅱ類	[準絶滅危惧]
ウラギンヒョウモン（昆虫類・タテハチョウ科）	絶滅危惧Ⅱ類	[準絶滅危惧]

【絶滅の危険性のランクが下がった種】

ツヤネクイハムシ（昆虫類・ハムシ科）	準絶滅危惧	[絶滅危惧Ⅱ類]
--------------------	-------	----------

【新規掲載された種】

ニホンイシガメ (爬虫類・イシガメ科)	絶滅危惧Ⅱ類	[新規掲載]
ミカワサンショウウオ (両性類・サンショウウオ科)	絶滅危惧ⅠA類	[新規掲載]
ツシマトリノフンダマシ (クモ類・コガネグモ科)	絶滅危惧ⅠB類	[新規掲載]
ワクドツキジグモ (クモ類・コガネグモ科)	絶滅危惧ⅠB類	[新規掲載]
エビチャコモリグモ (クモ類・コモリグモ科)	絶滅危惧ⅠB類	[新規掲載]
アライトコモリグモ (クモ類・コモリグモ科)	絶滅危惧ⅠB類	[新規掲載]

※[]内は、レッドデータブックおかげき 2014 の評価区分を示しています

表2 第2次岡崎市版レッドリスト 2018 掲載種数 (動物)

評価区分 対象	絶滅 (EX)	絶滅のおそれのある種				準絶滅 危惧 (NT)	情報 不足 (DD)	計	地域 個体群 (LP)
		絶滅 危惧 I A類 (CR)	絶滅 危惧 I B類 (EN)	絶滅 危惧 II類 (VU)	小計				
哺乳類	3	2	3	2	7	2	2	14	0
鳥類	0	4	7	12	23	17	2	42	2
爬虫類	0	0	0	1	1	0	2	3	0
両生類	0	1	0	2	3	5	1	9	0
魚類	2	0	2	1	3	6	3	14	0
昆虫類	8	8	6	22	36	48	5	97	0
クモ類	0	3	9	14	26	4	1	31	0
貝類 (小計)	0	4	0	4	8	6	2	16	0
陸産	0	1	0	3	4	3	2	9	0
淡水産	0	3	0	1	4	3	0	7	0
計	13	22	27	58	107	88	18	226	2

※ は現行のレッドデータブックおかげき 2014 から変化のある部分を示しています

参考 レッドデータブックおかげき 2014 掲載種数 (動物)

評価区分 対象	絶滅 (EX)	絶滅のおそれのある種				準絶滅 危惧 (NT)	情報 不足 (DD)	計	地域 個体群 (LP)
		絶滅 危惧 I A類 (CR)	絶滅 危惧 I B類 (EN)	絶滅 危惧 II類 (VU)	小計				
哺乳類	3	2	3	2	7	2	2	14	0
鳥類	0	4	7	12	23	17	2	42	2
爬虫類	0	0	0	0	0	0	2	2	0
両生類	0	0	0	2	2	5	1	8	0
魚類	2	0	2	1	3	6	3	14	0
昆虫類	7	4	5	22	31	54	5	97	0
クモ類	0	3	5	14	22	4	1	27	0
貝類 (小計)	0	4	0	4	8	6	2	16	0
陸産	0	1	0	3	4	3	2	9	0
淡水産	0	3	0	1	4	3	0	7	0
計	12	17	22	57	96	94	18	220	2

5 岡崎市版レッドリストの評価方法及び基準

(1) 植物

植物については、標本あるいは文献等により、岡崎市に確実に生育している（いた）と判断された種のうち、人為的に移入された種を除いて、収集された情報を基に市内の分布の状況等を勘案して総合的に判断・評価を行い、別紙1の評価区分基準により絶滅のおそれの程度を判定しました。

(2) 動物

動物については、標本あるいは文献等により、岡崎市に確実に生息している（いた）と判断された種のうち、人為的に移入された種及び一過性の確認種を除いて、収集された情報を基に市内の分布の状況等を勘案して総合的に判断・評価を行い、別紙2の評価区分基準により絶滅のおそれの程度を判定しました。

また、「絶滅」の評価については、「過去に確実に生息していた種」と判断する文献や標本の整備状況及び移動能力が分類群毎に異なることから、表3に示す要件により判定しました。

表3 過去の生息種の要件

分類群	内 容
哺乳類	縄文時代草創期以降の確認記録があるもの 一過性の種、移入種、後期更新世以前の化石種は除外
鳥 類	継続（経年的）確認記録がある種 迷行的に記録される種など一過性の種は除外
爬虫類	標本等の確実な生息記録がある種
両生類	標本等の確実な生息記録がある種
魚 類	標本等の確実な生息記録がある種
昆虫類	標本等の確実な生息記録がある種
クモ類	標本等の確実な生息記録がある種
貝 類	標本等の確実な生息記録がある種

別紙1 岡崎市版レッドリストの評価区分基準（植物）

区分及び基本概念		定性的要件		
絶滅 Extinct (EX) ・ 野生絶滅 Extinct in the Wild (EW)	岡崎市ではすでに絶滅したと考えられる種。野生では絶滅し、栽培下でのみ存続している種。	過去に岡崎市に生育したことが確認されており、岡崎市において少なくとも野生ですでに絶滅したと考えられる種（栽培下では存続している種を含む）。 【確実な情報があるもの】 1 今回の調査や記録により、すでに野生で絶滅したことが確認された。 【情報量が少ないもの】 2 過去50年間前後の間に、信頼できる生育の情報が得られていない。		
絶滅危惧Ⅰ類 Critically Endangered + Endangered (CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。	次のいずれかに該当する種。 【確実な情報があるもの】 1 既知のすべての個体群で、危機的水準にまで減少している。 2 既知のすべての生育地で、生育条件が著しく悪化している。 3 既知のすべての個体群がその再生産能力を上回る採取圧にさらされている。 4 ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種が侵入している。 【情報量が少ないもの】 5 それほど遠くない過去(30年～50年)の生育記録以後確認情報がなく、その後信頼すべき調査が行われていないため、絶滅したかどうかの判断が困難なもの。	絶滅危惧ⅠA類 (CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
			絶滅危惧ⅠB類 (EN)	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。
絶滅危惧Ⅱ類 Vulnerable (VU)	絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。	次のいずれかに該当する種 【確実な情報があるもの】 1 大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。 2 大部分の生育地で生育条件が明らかに悪化しつつある。 3 大部分の個体群がその再生産能力を上回る採取圧にさらされている。 4 分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している。		
準絶滅危惧 Near Threatened (NT)	存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生育条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。	次に該当する種。 生育状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。具体的には、分布域の一部において、次のいずれかの傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。 1 個体数が減少している。 2 生育条件が悪化している。 3 過度の採取による圧迫を受けている。 4 交雑可能な別種が侵入している。		
情報不足 Data Deficient (DD)	評価するだけの情報が不足している種。	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性(具体的には、次のいずれかの要素)を有しているが、生育状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていない種。あるいは確認例が極めて少なく、希少であるか否かも不明な種。 1 どの生育地においても生育密度が低く希少である。 2 生育地が極限されている。 3 生物地理上、孤立した分布特性を有する(分布域がごく限られた固有種等)。 4 生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている。		

別紙2 岡崎市版レッドリストの評価区分基準（動物）

区分及び基本概念		定性的要件		
絶滅 Extinct (EX) ・ 野生絶滅 Extinct in the Wild (EW)	岡崎市ではすでに絶滅したと考えられる種。野生では絶滅し、飼育下でのみ存続している種。	過去に岡崎市に生息したことが確認されており、岡崎市において少なくとも野生ですでに絶滅したと考えられる種（飼育下では存続している種を含む）。 【確実な情報があるもの】 1 今回の調査や記録により、すでに野生で絶滅したことが確認された。 【情報量が少ないもの】 2 過去50年間前後の間に、信頼できる生息の情報が得られていない。		
絶滅危惧 I 類 Critically Endangered + Endangered (CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。	次のいずれかに該当する種。 【確実な情報があるもの】 1 既知のすべての個体群で、危機的水準にまで減少している。 2 既知のすべての生息地で、生息条件が著しく悪化している。 3 既知のすべての個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 4 ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種が侵入している。 【情報量が少ないもの】 5 それほど遠くない過去(30年～50年)の生息記録以後確認情報がなく、その後信頼すべき調査が行われていないため、絶滅したかどうかの判断が困難なもの。	絶滅危惧 I A 類 (CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
			絶滅危惧 I B 類 (EN)	I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。
絶滅危惧 II 類 Vulnerable (VU)	絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。	次のいずれかに該当する種 【確実な情報があるもの】 1 大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。 2 大部分の生息地で生息条件が明らかに悪化しつつある。 3 大部分の個体群がその再生産能力を上回る捕獲圧にさらされている。 4 分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している。		
準絶滅危惧 Near Threatened (NT)	存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。	次に該当する種。 生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。具体的には、分布域の一部において、次のいずれかの傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。 1 個体数が減少している。 2 生息条件が悪化している。 3 過度の捕獲による圧迫を受けている。 4 交雑可能な別種が侵入している。		
情報不足 Data Deficient (DD)	評価するだけの情報が不足している種。	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性(具体的には、次のいずれかの要素)を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていない種。あるいは確認例が極めて少なく、希少であるか否かも不明な種。 1 どの生息地においても生息密度が低く希少である。 2 生息地が極限されている。 3 生物地理上、孤立した分布特性を有する(分布域がごく限られた固有種等)。 4 生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている。		
地域個体群 Threatened Local Population (LP)	その種の国内及び愛知県における生息状況に鑑み、岡崎市において特に保全のための配慮が必要と考えられる特徴的な個体群。			